

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101819		
法人名	医療法人 慈成会		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	徳島県徳島市津田西町1丁目9-5		
自己評価作成日	平成26年1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成26年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人にとって大切なことや大事にしたいつながりを知って支援に活かす取り組みをしている。利用者一人ひとりもっている可能性を活かし、安心して自分らしく暮らしていけるよう支援している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は山麓の静かな環境のなかに位置している。全職員が認知症に関する深い理解と見識を有するよう取り組んでおり、“ゆっくり・一緒に・楽しみながら”の理念にそって、利用者が地域でその人らしく暮らし続けるための支援を行っている。事業所の近隣には母体法人の運営する医療機関があり、そのことも利用者や家族の安心に繋がっている。地域との交流にも積極的に取り組んでおり、認知症ケアの啓発や災害時の避難所としての役割発揮について検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GHほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた場所で、その人らしい生活が維持できるような環境づくりを目指し、ゆっくり、一緒に、楽しみながらという理念を掲げ、事業所内に掲示し、確認を行い、いつでも理念に立ち返れるようにしている。	職員は、利用者に寄りそい、傾聴することを基本として取り組んでいる。事業所の理念である、“ゆっくり、一緒に、楽しみながら”にそって、利用者が安心して地域で暮らし続けることができるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練等、地域で行われるイベントには積極的に参加したり、散歩や買い物に出掛け、近隣住民との交流を深めている。	日ごろから利用者は、事業所周辺の散歩や買い物に出かけたり、地域行事へ参加したりして、地域住民との交流を図っている。幼稚園との交流やボランティアの受入れ、災害避難所としての整備、認知症ケアの啓発等に取り組むことができるよう計画を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への日常生活支援についての理解を得られるよう、運営推進会議等の場を設けて地域の人達に伝達をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席していただいている利用者の要望等をお聞きしたり、月間の行事を写真で分かりやすく報告している。出席者の質疑応答については、職員間で回覧しサービスの質の向上に努めている	おおむね2か月に1回、運営推進会議を開催している。委員の見直しを行ったり、職員間で議題を出しあったりして、積極的に会議の運営を行っている。出席者から出された提案等は、全職員で話しあって運営面に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月利用状況等の報告を直接、窓口に参加し、担当者と言葉を交わすようにしている。	毎月の現況報告提出時や更新認定申請時に市担当窓口を訪問して事業所の状況を伝えるなどし、協力関係を構築することができるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部からの侵入者に対する安全面を考え、玄関の施錠を行っているが、利用者様は自由に出入り出来るようにしている。	職員間で身体拘束の内容と弊害について正しく理解するよう努めている。玄関を開錠し、職員は、利用者と一緒に寄りそって接することで、外出への希望をいち早く把握するよう取り組んでいる。利用者一人ひとりが安全に自由な暮らしを送ることができるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症についての勉強会を行ったり、資料や新聞等の切り抜きをミーティング時に回覧したりして、個々のケアについての向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GHほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活支援事業を利用している方がいる。成年後見人制度については、案内を事務所に掲示し、研修に参加できるような体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、利用者や家族に納得していただき、不安や疑問なく入退去していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者や家族の方が職員に対して、何でも話せるような雰囲気づくりを心掛けている。出された意見、要望等は話し合いを行い運営に反映させている。	家族の来訪時、職員は日ごろの利用者の様子を伝えたり、積極的に意見や要望を把握するよう努めている。意見箱も設置しており、出された意見等は職員間で検討したうえで運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕のミーティングでの意見、提案を聞いたりしている。随時疑問点や改善点など率直な意見を聞けるようにし、運営に反映させている。	職員が日ごろの業務を通じて気づいたことや提案等は、管理者が中心となってミーティング等の機会に話しあっている。代表者の来訪時や各種委員会の開催時には意見交換の機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを持って働けるよう、職員の努力や実績を評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の案内があれば事務所内に掲示し、希望者には受講できるよう勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での交流や実践者研修の受け入れを行っている。また会議や研修、勉強会に参加し情報や意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GHほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を取り除くためコミュニケーションを取りながら可能な限り本人の希望を取り入れ、信頼関係を築くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に家族との信頼関係が築けるよう心がけ、不安や要望等、話しやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族が必要としている事を聞き、一緒に考えている。より良いサービスが選択できるよう、他のサービスの情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の個性や力を力を発揮できるようにし、職員と共に家族のように過ごし、お互い助け合い、協力しながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の暮らしをお伝えし、情報の共有に努めている。家族の思いを受け止め、共に支えあっていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者は地元の人が多いため、知人や友人との交流が途切れないよう、気軽に行き来出来るよう支援している。	利用者は、定期的に行きつけの理・美容院へ通っており、利用者一人ひとりが好みの髪型やおしゃれを楽しんでいる。日ごろの散歩時には、近隣の知人と会話を楽しんでいる。また、法人内の行事に参加したり、同一法人の運営する他サービス事業所の利用者に立ち寄ってもらったりしている。本人の希望に応じて電話や手紙のやりとりも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共同で楽しめる、遊びやゲームを考えたり、関わりながら過ごしてもらえるように声掛けを行ったり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GHほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院により、やむを得ず退居になられた場合でも、お見舞いに伺っている。家族に体調をお聞きしたり、相談や支援に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを受け止め、本人や家族の希望をお聞きし、職員同士の情報の共有に努めている。	職員は、日ごろの利用者との関わりや家族から得た情報をもとに、一人ひとりの意向を把握するよう努めている。意思表示が困難な利用者には、表情から真意を読みとるよう努めたり、自己決定しやすいよう働きかけたりして、その人らしい暮らしの実現に向けた支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から情報収集を行うと共に、ケアマネージャーからの情報等により把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しの変化も見落とさないようにし、本人の持っている出来る力を発揮出来るよう、職員が本人の状況を判断できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い利用者や家族の意見を聞き、家族の要望やケアの変更等も介護計画に組み入れて、本人がより良い暮らしが出来るような、介護計画を作成している。	本人や家族、関係者、職員の気づきや意見をもとに、その人らしく暮らし続けるために必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成している。モニタリングを繰り返し行い、利用者の状態の変化に応じた介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や暮らしぶり、気づき等を記録し、朝夕のミーティング時に職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に応じた支援内容を考え、満足感を得られるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GHほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染み親しんできた地域との交流を行い、お世話になっている民生委員や地域の人達に支援していただき、安心して生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。	多くの利用者が協力医療機関の医師を主治医としている。他科の専門医に関しては、家族の協力を得たうえで、利用者一人ひとりのかかりつけ医の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護職員は、利用者の日頃の状態や持病を把握して、馴染の関係を構築している。緊急時の協力体制も出ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行い、本人の心のケアを行うと共に、家族と相談しながら、早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族と話し合っ、重度化した場合の希望を聞き、事業所の対応について説明している。	入居時の段階から本人や家族と話し合いを行っている。事業所から、重度化した場合に対応可能な支援の内容等について説明を行っている。利用者の状態変化に応じ、関係者間で連携を図りつつチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、緊急時に対応している。外部の訓練にも参加し実践力を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を行っている。利用者にも参加してもらい避難訓練を行い、安全な避難誘導が出来るよう備えている。	年2回、事業所の災害時対応マニュアルに基づく避難・誘導訓練を実施している。地域への災害時の協力依頼や、事業所を地域の避難場所として提供することなどについても協議を重ねている。また、災害時用の物品も備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GHほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の一人ひとりの尊厳を維持し、言葉使いや態度に注意し支援している。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援の徹底に努めており、利用者同士の会話にも気配りをしている。また、利用者職員が、家族のような関係となるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自身で自己決定できるよう支援し、意思表示出来ない場合でも、その思いをくみ取ることの出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	満足のいく一日を過ごしてもらうために利用者のその日の体調、動きに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に衣類の選択をしていただき、着用してもらっている。馴染みの理美容院を希望される場合は、職員が送迎を行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回の食事作りには利用者の意見を取り入れメニューを決めている。買い物、調理、片付け等職員と協力して行い、楽しまれている。	朝食以外は同一法人の運営する他サービス事業所で調理したものを運び込んでいる。しかし、月1回は、利用者と職員で献立や買物、調理を行っている。利用者は、机拭きや盛りつけ、配下膳等、一人ひとりの力量にあった役割を担っている。和やかな雰囲気の中談笑しつつ食事を楽しんでおり、職員はさりげなく介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル、服薬、入浴、食事量、水分量、排泄が記録できるチェック表を使いその日の状態がすぐ分かるようにしている。職員間での連絡も行い、変化があれば主治医に報告し、指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝前には声掛けを行っている。利用者に応じて一部介助の必要な人には支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GHほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表をつけることにより排泄のパターンやサインをキャッチし、トイレ誘導を行う等排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員は、利用者の表情や排泄記録から一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、さりげない声かけや誘導を行うことでトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事量に注意し、繊維質のあるものの摂取や活動するための援助等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに応じた対応で満足感を味わってもらえるような支援を行っている。	事業所では、利用者の希望にそった入浴ができるよう支援している。利用者は、入浴の時間を楽しみにしており、ゆったりとくつろいだ気分で入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や寝具を整え、利用者の生活リズムが崩れないように配慮した支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルを作り薬の内容が確認できるようにしている。飲み忘れや誤薬が無いよう配薬袋を使用し、朝、昼、夕、マーカーで色分けしている。配薬に関しては2重のチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じた役割を行ってもらい、達成感を味わってもらうことにより、張り合いのある毎日を過ごしてもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出の機会を持てるよう、散歩、買い物、季節の花を見に行くなどの支援を行っている。	日ごろから、利用者と職員は近隣の山道や海岸へ散歩に出かけている。また、季節の花見や遠足、阿波踊り見物等へ出かけている。歩行の困難な方にもできるだけ外出してもらおうことができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GHほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心されたり、買い物を楽しまれたり、利用者一人ひとりの希望や能力に応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が子機を利用し、居室でゆっくりと話せるよう支援している。手紙のやり取り等も一人ひとり対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは常に安全と清潔に心がけ、壁面飾りは利用者協力のもと手作りで、月ごとの季節感を味わえるようにしている。楽しみながら、居心地良く過ごしてもらえよう工夫している。	共有空間のホールの壁面には、利用者の笑顔が溢れる写真や手づくりの作品を掲示しており、家庭的で居心地の良い空間となっている。対面式のキッチンからは、ホール全体や和室、居室等を見渡すことができる。利用者と職員は和やかに会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり、お気に入りの場所で思い思いの時間を過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みのあるものに囲まれた生活が出来るよう、家族にも協力していただき、居心地の良い場所になるようにしている。	利用者は居室に馴染みの品を持ち込んでいる。思い出の品に囲まれた居室やシンプルに整備された部屋等、その人らしく暮らすことのできる居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に暮らせるよう、ベッドの高低、滑り止めマット、コーナーカバー、配線の固定等配慮している。		